

令和6年度

決算報告

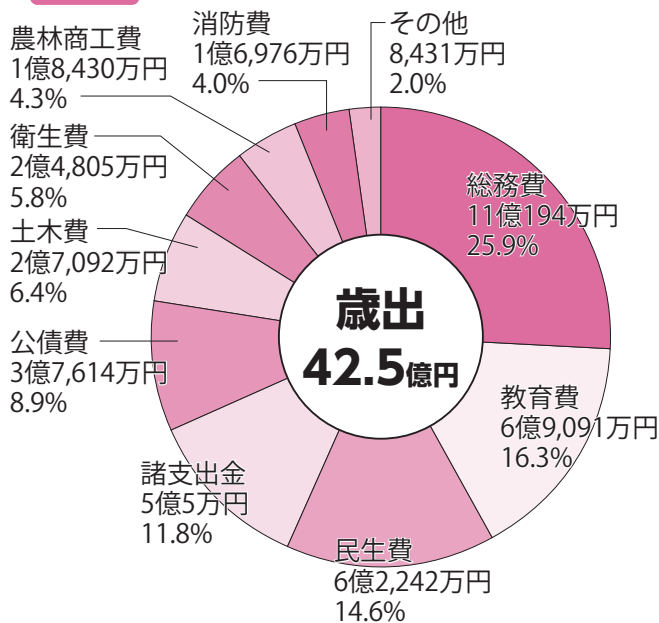
決算は、村がどのような事業を行い、どのようなお金が入ってきたかなどをとりまとめたものです。令和6年度の決算や財政指標から、本村の財政状況をお知らせします。

令和6年度一般会計決算は、歳入45億4,628万円、歳出42億4,879万円で、前年度と比べると歳入で2,698万円の減少、歳出で8,287万円増加した決算となりました。

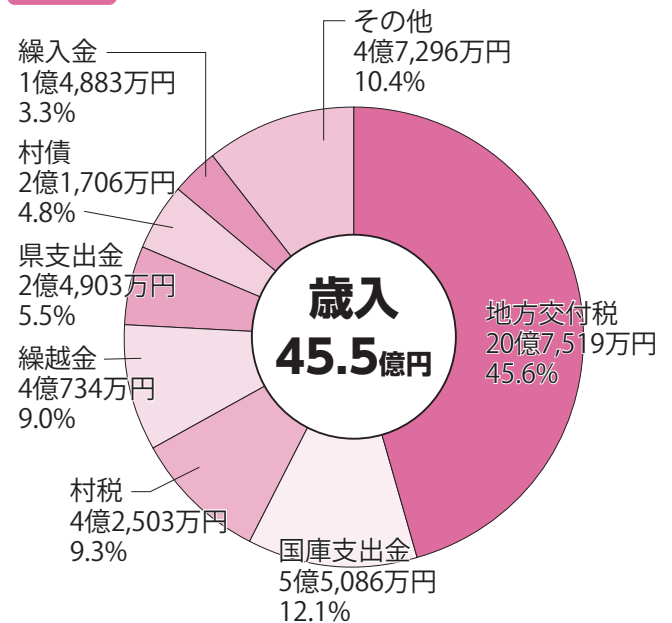
また、一般会計と7特別会計、水道事業会計ならびに下水道事業会計の合計10会計を合算すると、歳入67億7,425万円、歳出65億4,972万円となり、前年度と比べると歳入で2,179万円の減少、歳出で2,084万円の増加となりました。

一般会計決算書内訳

歳出



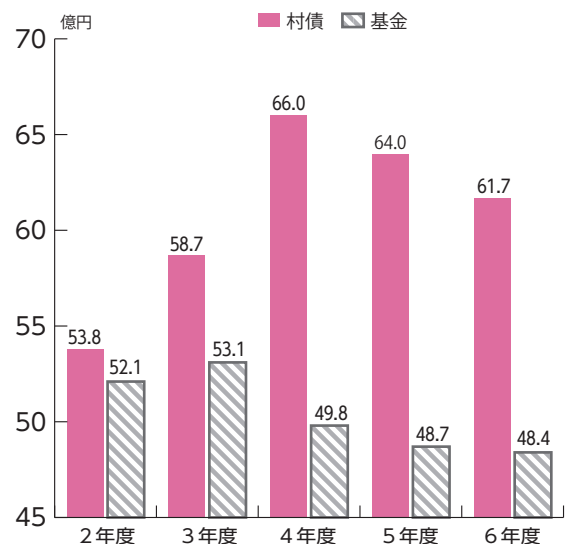
歳入



特別会計・事業会計決算額

会計名	歳入	歳出
整備基金	4,106万円	3,864万円
高松塚壁画館受託事業	840万円	840万円
国民健康保険 (事業勘定)	6億8,660万円	6億6,910万円
// (診療施設勘定)	1,821万円	1,821万円
後期高齢者医療	1億4,382万円	1億4,370万円
介護保険 (事業勘定)	7億1,547万円	6億7,660万円
// (サービス事業勘定)	552万円	552万円
飲料水供給施設事業	1,031万円	1,031万円
公有地等住宅開発事業	227万円	227万円
水道事業会計	2億5,175万円	3億378万円
下水道事業会計	3億4,455万円	4億2,439万円

村債 (借金) と基金 (貯金) の推移



※令和6年度決算の概要については、村HPをご覧ください。

明日香座 開催

8月9日(土)

【対象大字】

岡・島庄・上居・細川・上・尾曾・冬野・畑・入谷・栢森・稲淵・阪田・祝戸・橘・立部・野口・川原



問 「飛鳥の宮都を体感できるまちづくり」「にぎわい創出」はどれも抽象的で、具体的な施策が分からない。今後村民の負担が増えないか不安だ。また岡大字ではすでに観光客による渋滞が起こつて

いるので交通対策も考えてほしい。

(岡)

答 にぎわいの通りをつくるため、この10年間で岡大字や飛鳥大字の電線類地中化を行った。

若い世代が住みながら地域が活性化することが大切だと考えている。事業は皆さまと一緒に議論した上で進める必要がある。すでにこの地域に興味を持つ人たちが集まり、にぎわいの創出に向けて議論が始まっている。

オーバーツーリズム対策は、駐車場の予約制や課金などによる仕組み等ができないかと考えている。

(村長)

問 以前は電気柵等に対して村から全額の金銭的援助があったが、今回の補助額は4分の1だ。物価高騰を配慮し、全額補助してほしい。

(立部)

答 補助要件については、皆さまの状況や申請内容、ご要望をお聞きして検討する。要件変更の際は、改めて広報等でお知らせする。その他獣害対策等も取り組んでいるので、引き続きご協力をお願いする。

(明日香産業課長補佐)

問 農地は耕作をしている方の管

理により、美しい景色を保っているが、後継者がいなければたちまち荒れてしまう。村に風景を守る施策を考えてほしい。

(橘)

答 各地域で進めている地域計画の話し合いをきっかけに、村も農地の保全に取り組みたい。また、農地対策と獣害対策を一体的に進める必要があると認識しており、獣害対策にも引き続き取り組む。

(副村長)

問 観光客による民家のトイレ借用対策として、大字に仮設トイレを設置してもらいたい。

(冬野)

答 今年度に災害用トイレの購入を予定している。災害時だけでなく、イベントやニーズがある地域等でも運用したい。1台を仮運用し、今後の方針を検討する。

(副村長)

問 地震により高市橋が倒壊した場合、飛鳥川の東側で収容できる避難所は万葉文化館のみとなる。旧役場庁舎を避難所と村民コミュニティの場として活用できないか。

(岡)

答 いただいたご意見を含めて、大規模地震発生時の対応は検討を続け、改善する。旧役場の敷地の

活用は飛鳥宮跡の整備を進めている県の判断を待っているところだ。

(村長)

問 世界遺産の緩衝地帯に対して、今後新たな規制が生まれるのか。

(橘)

答 村はすでに明日香法や景観法による規制があるため、緩衝地帯に対して新しく規制がかかることはない。

(世界遺産戦略課長)

問 細川谷では、高齢化や関係人口の減少により、農業用水路の整備や維持管理が難しくなっている。行政から支援がほしい。

(細川)

答 「多面的機能支払交付金」という共同活動を補助する国の事業に、農業用施設への補助枠がある。この事業は令和9年度から5年間新たに開始するため、随時ご案内したい。

(明日香産業課長補佐)

問 子どもが減り、小学校の部団登校が成り立たなくなっている。部団の仕組みやルールを再度検討いただきたい。

(岡)

答 健康・防犯の理由から、子どもたちができるだけバスを利用する方向で調整している。保護者の

方等の意見も聞き、できれば来年度は新たな通学形態ができるように進めたい。
(教育長)

問 今年行った鹿の猟銃駆除の実績と今後の展開を知りたい。

(阪田)

答 猟銃駆除の実績はゼロである。当初は、田植や稲刈りの時期に合わせた駆除をする予定であったが、短時間での駆除が難しいことから、稲刈り時期の駆除は調整中である。村民生活に配慮して、場所や日時を調整する。実施前に改めてお知らせする。

(↓16ページにお知らせ)

(明日香産業課長補佐)

【その他の意見】

・単身者や若い家族が気軽に借りられる物件を増やせばよい。

(岡)

・若い世代の集会もあれば参加したい。

(岡)

・移住者を増やす施策をもっと行うべきだ。空き家バンクHPには同じ物件が売れずに載っているが、家の修理と田畑利用を条件に、補助金を出せないのか。

(岡)

・大字内における道路整備事業

(新道)を進めてほしい。(島庄)

8月23日(土)

【対象大字】

飛鳥・豊浦・雷・小山・奥山・八釣・東山・小原



問 ふるさと納税に関して、地域の魅力発信について、村はどのように考えているのか。

(飛鳥)

答 村の魅力を発信するため、地域振興公社や村内の事業者、農家の方々と協力し、返礼品の充実に取り組む。また、文化財を活用した体験ツアーや、村内の芸術家による製作体験等、モノだけでなくコト(体験)も含めた魅力的なふるさと納税の返礼品を開発したい。

(総務財政課長)

問 耕作放棄地の草刈り等の景観維持管理を支援する仕組みを考えていただけないか。

(飛鳥)

答 耕作放棄地は農地としての活用が基本だと考えている。そのため、担い手の確保や新規農業参入者の支援について、県と連携しながら取組を進めている。また、草刈りや水路の清掃等の日常的な管理は、国の支援制度等も活用しながら、農地の保全と有効活用を進めたい。

(副村長)

問 農作物の獣害被害対策を支援してほしい。また、移住して新規就農する方への定住支援をしてほしい。

(飛鳥)

答 柵の補助や早朝の狩猟等を実施してきたが、被害は依然として増加傾向にある。現在、県と連携しながら新たな獣害対策を検討中であり、耕作放棄地の解消や移住した若者の農業定着支援につなげられるよう、取組を進める。

(副村長)

問 亀形石造物が出土した際、新道設置の計画が無くなった。大型バスが万葉文化館の駐車場を通って飛鳥大仏等に行けるようになるのか。

(飛鳥)

答 村民の皆さまにはご不便をおかけして申し訳ない。世界遺産登録を見据えた「にぎわいのまちづくり」の観点からバス等は万葉文化館の駐車場に停め、そこから徒歩で移動していただくことが望ましいと考えている。

(地域づくり課長)

問 飛鳥大字から飛鳥坐神社を通って奥山大字へと続く県道の交差点付近の道が狭く、すれ違いが難しい箇所があるので、対策してほしい。

(飛鳥)

答 当該県道は村道に移管予定であり、移管に向けた整備を県が行っている。そのため、現時点で対策工事は難しいが、村に移管後は、道路の改良を進めたい。

(地域づくり課長)

問 有機栽培や減農薬栽培でつくった地域の野菜をこども園の給食に使用してはどうか。農業への意欲も高まり、地域にもプラスになるのではないか。

(飛鳥)

答 こども園の給食は、0歳〜2歳児分のみを園内で少量調理し、3歳以上は給食センターから配送する予定である。

通常は県の学校給食会等から食

材を仕入れるが、村では地元産のお米を使用する等、地場産品を取り入れる努力をしている。ご提案いただいた有機野菜等の活用も重要な視点だと考えており、今後も「安価で安全・安心なおいしい給食」という基本を踏まえつつ、前向きに検討したい。(教育長)

問 世界遺産に登録された場合、外国人の来訪が予想される。コミュニケーションをとるために簡単な英会話の勉強会や、翻訳機の貸出等を検討いただきたい。

答 世界遺産登録を目指す中で、若い世代が集まり、村の観光を考える勉強会が行われている。その中で考えていただいたアイデア等良い取り組みに対する支援を検討したい。(世界遺産戦略課長)

問 グリーンスローモビリティを運行する際、暑さ対策として、観光客に空冷ファン付きの古代衣装を着用してもらうのはどうか。

答 グリーンスローモビリティは、今年度中の実証実験運行を目指して現在準備を進めている。暑さや寒さの課題もあるため、いた

だいたご意見も踏まえ、対策を検討したい。(世界遺産戦略課長)

問 明日香保存は、御井敬三氏と犬養孝氏お二方のおかげである。しかし、御井氏の功績はほとんど公開されておらず、犬養万葉記念館も万葉集中心の展示となっており、本来の顕彰機能が薄れている。犬養万葉記念館等を活用し、両氏の功績に報いる方策を検討してほしい。

また、過去と現代を比較し、近世以降の明日香の変遷を分かりやすく伝えるような展示施設を検討してはどうか。既存施設の有効活用や南都銀行跡地の活用を含めて、検討いただきたい。(飛鳥)

答 犬養万葉記念館は今年度から新たな指定管理者のもと、万葉集に親しむ場として準備を進めている。ご提案のような大きな方向転換は当面保留させていただくが、古代だけでなく、近世以降の明日香の歴史や暮らしも大切にしながら、それを伝える手段を検討し、研究と発信の幅を広げていきたい。(文化財課長)

問 大官大寺跡に通じる遊歩道沿いの角柱が、川に落ちる事態が続

いている。令和4年に要望書を提出しているが、根本的な対策がなされていない。過去に転倒事故が発生したため、安全対策をしてほしい。(小山)

答 角柱をすべて撤去するのが最善と考えている。さらなる安全対策が必要か、現場を見て確認する。(地域づくり課長)

問 飛鳥駅周辺の機能向上が掲げられているが、本当に玄関口としての役割を果たせるのか。飛鳥駅前の道路では、吉野方面から桜井方面への右折待ち車両の渋滞が発生している。今後オーバートリズムの懸念もあり、駅周辺の整備が本当に効果を上げるのか、また観光周遊の利便性が改善されるのか。(電)

答 ある程度の見通しを立てて計画を進めている。村は道路環境の改善のため、高取バイパス工事の早期完了、飛鳥駅から村内を通り藤原京へ至る道路の一元的管理を県に要望している。また、駐車場確保の課題についても、関係者と調整し、丁寧に議論を重ねながら進めていきたい。(村長)

【その他意見】

・飛鳥川は、数年前に土砂を除去したが、現在再び土砂が堆積している。治水や景観保護の観点から、県に土砂上げを再度依頼していただきたい。(飛鳥)

・リチウム電池は火災や爆発の危険がある。ゴミとしての出し方や処理方法を、分かりやすい形で周知していただきたい。

(飛鳥)

・阪合地区には高松塚古墳やキトラ古墳、高市地区には石舞台古墳や亀形石造物等の遺構が残されているが、飛鳥地区にはそれに相当するものが展示等されていない。現在飛鳥資料館に展示されている石人像や須弥山石を、出土した石神遺跡の田んぼ跡に移転展示してはどうか。世界遺産としての価値や魅力も一層高まるのでは。(飛鳥)

・史跡酒船石遺跡内の動線や案内方法を改善してはどうか。(飛鳥)

・ゴミ袋の有料化を検討してはどうか。(飛鳥)

・県道124号線雷北交差点の道路環境の改善を検討していただきたい。(飛鳥)

災害時に備えて3つの協定を締結

近年、台風による突風被害や、地震、大規模山林火災、豪雨災害など多くの自然災害が発生しています。

近い将来の発生が危惧されている南海トラフ巨大地震をはじめ、様々な災害への備えとして、各種団体・企業の皆さまのご協力を得て災害協定を締結しました。

■物資供給等に関する協定

【目的】 必要物資等の迅速かつ円滑な供給、被災者の生活支援

【協定先】 NPO法人コメリ災害対策センター

■被災者支援に関する協定

【目的】 罹災証明の申請手続き支援

※罹災証明は、自然災害による住への被害程度を村が証明するもので、公的支援の可否を判断する必要書類です。

【協定先】 奈良県行政書士会

■障害物等の除去等に関する協定

【目的】 被災地域へ続く道路上の障害物除去による通行の早期確保、迅速な救援・復旧の実施

【協定先】 NTT西日本株式会社

9/29 栃木県下野市と包括連携協定を締結

下野市は古代から飛鳥・奈良時代にかけての東国を代表する史跡が遺るまちです。飛鳥時代には天武天皇の親任を受けた下毛野朝臣古麻呂が、日本初の法律「大宝律令」の編纂に携わるなど、朝廷とも深い関わりのある豪族の拠点でもありました。また、村と共通する史跡などが多い下野市では古代の資産を活用した歴史文化観光を推進し、「東の飛鳥」をコンセプトにまちづくりを進められています。

■包括連携協定

【目的】 同時代に栄えた歴史や文化交流を現代に甦らせ、相互的に共有し、情報発信などの応援や協力をしていくことで、両市村の更なる発展と恒久的な友好関係を構築する。



▲（右から）坂村市長、森川村長

10/17 ベスト・ツーリズム・ビレッジ認定

持続可能な観光地づくりに取り組む村として、国連世界観光機関（UN Tourism）により、明日香村が「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」に認定されました。

国内では、岐阜県白川村や北海道美瑛町、京都府美山町などに続き9地域目となります。

【ベスト・ツーリズム・ビレッジとは】

観光を通じて文化遺産の保全や持続可能な開発に取り組む優良地域を認定するプロジェクトで、昨年までに世界で185地域が認定を受けています。

【認定基準】

①文化・自然資源、②文化資源の振興・保全、③経済分野の持続可能性、④社会分野の持続可能性、⑤環境分野の持続可能性、⑥観光開発とバリューチェーンの強化、⑦観光分野のガバナンス、⑧アクセス・インフラ、⑨公衆衛生・安心・安全

【今後に向けて】

持続可能性を尊重する観光地として世界への発信や、優良事例等を学ぶ機会を得ながら、観光地づくりを推進します。

【特に評価された点】

- ①日本の古代史と伝統的な農村景観が一体となっていて残る稀有な地域を守り継ぎ、「奈良・斑鳩・飛鳥・藤原（暫定リスト）・紀伊山地」の世界遺産ルートの中で人々を魅了していること。
- ②古民家を活用した宿泊施設や飲食店、農業や料理、工芸といった地域文化に根差したアクティビティを通じて、本物の日本の農村体験を提供していること。
- ③直売所を拠点として、地域産の米や野菜、いちご等の果物が、宿泊施設や飲食店で料理やスイーツとして提供され、その結果、農村景観の保全につなげていること。



9/27 GIGAKU 「行道」^{ぎょうどう}

飛鳥時代に大陸から伝来し、国際色豊かな仮面を用いた無言の仮面劇「伎楽」^{ぎがく}。演目の一部とされる「行道」が行われました。令和6年度から「GIGAKU プロジェクト」が始動しており、アーティストディレクター兼ダンサーの森山開次氏を招き、新たな時代を切り開くツールとしての「GIGAKU」を創造しています。

セレモニーでは、実行委員長の金野幸雄氏、森山開次氏、森川村長により、この地で伎楽を行う意義や、新たな GIGAKU の魅力が語られました。

行道では、伎楽の主要キャラクターの治道^{ちどう}、迦楼羅^{かろうら}、獅子^{しし}、毘沙門^{びさもん}を筆頭に、布作面^{ふさくめん}ダンサーや、太子面をつけた子ども達、古代衣装を纏った楽隊によって、村内の寺院や遺跡でパフォーマンスが行われました。

子ども達が着用しているお面とストールは、9月上旬のワークショップで子ども達が想いを込めて自作したものです。

来年秋頃の村内公演を目指して、活動が続いていきます。

飛鳥寺・迦楼羅の舞



飛鳥寺から苑池休憩舎へ
向かう道中

